

24:1 主は、モーセに仰せられた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のところにより、遠く離れて伏し拝め。

24:2 モーセひとり主のもとに近づけ。他の者は近づいてはならない。民もモーセといっしょに上ってはならない。」

24:3 そこでモーセは来て、主のことばと、定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えて言った。「主の仰せられたことは、みな行ないます。」

24:4 それで、モーセは主のことばを、ことごとく書きしるした。そうしてモーセは、翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、またイスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。

24:5 それから、彼はイスラエル人の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のいけにえをささげ、また、和解のいけにえとして雄牛を主にささげた。

24:6 モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半分を祭壇に注ぎかけた。

24:7 そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。」

24:8 そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたと結ばれる契約の血である。」

24:9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は上って行った。

24:10 そうして、彼らはイスラエルの神を仰

ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。

24:11 神はイスラエル人の指導者たちに手を下されなかったので、彼らは神を見、しかも飲み食いをした。

民は主に従うことを約束しました。そのときの思いにはうそはなかったでしょう。しかし、後に彼らは偶像礼拝の罪を犯すようになるのです。

彼らはここにあるようにこの世のものを超越した神の栄光を見たのですが、それでも罪を犯したということは、人は体験だけでは義なるものにはなれないということです。私たちもかつては素晴らしい神体験があったでしょうが、それに頼ることもまた誇ることもできません。ただただ罪赦されて神の子とさせていただいたという恵みと、聖霊によるしかないのです。常に聖霊によって新しくされましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

